

Shining Challenger

北海道釧路明輝高等学校
進路指導通信 第1号
平成27年6月2日発行

輝ける挑戦者たれ

ここがロドスだ、ここで跳べ！

表題の言葉は、イソップ寓話に出てくる話からきています。

古代のギリシアで、ある男が「俺はロードス島の競技会で、大跳躍してすごい記録を出した。ウソだと思うならロードス島に行って聞いてこい」と自慢した。しかし、それを聞いていた別の男に「ここがロードス島だと思って、ここで跳んでみろ！」と言われると、どこかへ逃げてしまった、という話です。ことわざで言えば“論より証拠”といったところです。

哲学者で『法の哲学』を書いたヘーゲルや、『資本論』を書いたマルクスも、この言葉を自分の著書の中に引用していることは、よく知られています。ヘーゲルやマルクスは、この言葉を用いて非現実的な理想論（あるいは妄想）を語るのではなく、現実のこの世界で今まさに行動せよ、という意味のことを述べています。

私は先日、人とのやり取りのなかで、この言葉の「跳べ」を間違えて「飛べ」とやってしまい、恥ずかしい思いをしました。それで、この話の内容と意味を正しく理解しようと色々調べました。それが上に書いてある内容です。

そして、その時にAKB48にこの言葉がタイトルになっている曲とアルバムがあるということも知りました。この曲について、AKB48の生みの親ともいえる秋元康は次のように言っています。

『AKB48のメンバーが“努力は報われるのか？”という大きなテーマに立ち向かっている今、悩み苦しむ彼女たちに、ふとこの言葉を贈りたくなったのです。“努力した”とか“頑張った”とか言う前に、まず、ここで跳んでみようと。つまり、ロードス島のことを忘れて、今、ここで跳ぶ勇気が必要なんだと。もしかしたら、ロドス(ロードス島)とはAKB48のことかもしれません。やがて、AKB48を卒業していくメンバーに、「(AKB48でどんなに頑張ったとか、どんなに努力したとか、どんな記録を出したとかはどうでもいい)、ここで跳べ！」と言われる日が来るだろうから。』

芸能界は厳しい世界です。結果だけが求められます。ですが誰にとっても生きていくこと自体が、実は厳しいものなのです。高校生活の中で、みなさんにとって“進路実現の道”は、特別に厳しく感じるのではないのでしょうか。しかし、言い訳や泣き言は通用しません。自分の描く将来を実現するための過程で様々なことを学び、結果を出すことが大切です。誰よりも自分自身のために。

この曲のリフレインの最後で彼女たちはこう歌っています。

「今の自分、見せてみろ、ここがロドスだ、ここで跳べ」

(文責:進路指導部長 青塚 晃)

*この通信全部または一部分の、転載・引用等を禁じる。